

はじめに

新しい小学校学習指導要領による教育活動も2年目となり、新しく教科として位置づけられた「外国語科」の授業についても、多くの実践が重ねられ定着してきたように感じます。しかし、子供たちに学力として定着しているのかという重要な視点を含め、「外国語科」や「外国語活動」の授業をどのように展開し、それをどのように評価・改善していくのかは、私たち小学校の教師にとって喫緊の大きな課題と言えます。

そんな中で本校は、平成31年度（令和元年度）に文部科学省の教育課程特例校の指定を受け、三年間「外国語科」や「外国語活動」に替えて「英語科」の授業を行ってまいりました。高学年の授業時数こそ「外国語科」と同じ70時間ですが、中学年の授業時数は「外国語活動」に位置付けられている35時間の2倍にあたる70時間を確保しました。さらに、今回の学習指導要領には「外国語の授業」が位置付けられていない低学年においても「英語科」の授業を35時間実施してきました。当然ながら、校内研修のテーマも「英語科」に絞り研究・実践を進めてきたところです。

テーマを「英語に親しみ、進んでコミュニケーションを図ろうとする児童の育成」、サブテーマを「楽しく活動できるSMARTな授業実践を通して」と設定し、「授業づくり」と「環境づくり」という二つの視点から実践内容を導き出してきました。特に本年度は、御船町全体で取り組んできた「御船中学校区『学力向上』研究指定事業」と重ねて研究を推進し、その成果を研究発表会にて発信することもできました。その視点がサブテーマにある「SMARTな授業実践」になります。そして、本校として、研究を始める段階でしっかりと議論し、中心に据えてきたことは、「『英語科』の研究ではありますが、それを通して身に付けさせたいもっと重要なことは、コミュニケーション力ではないか」ということでした。

論文の中には、そんな思いが含まれています。

この三年間の取組の中で、しっかりと成果を残すことができた部分はあるものの、課題として残されている部分があるのも事実です。まだまだ、十分な取組とは言えない部分ばかりですが、日々の授業や日常実践に生かせる内容にしていこうと考え取り組んできたところです。

本校の取組に対しまして、ご指導、ご助言をいただければ幸いに存じます。